

## 2023年度 第12回須坂市小中学校適正規模等審議会 会議録

○日時 2023年12月13日(水) 15:00～17:00

○場所 旧上高井郡役所2階多目的ホール1

○出席者

### 【審議会委員】

勝山幸則会長、荒井英治郎、本多健一委員、有地康晃委員、新崎佳子委員、丸山貴子委員、新野健委員、奥原利広委員、古平幸正委員、戸松清一郎委員、坪井扶司夫委員、新井孝之委員、桂本和弘委員、松澤裕子委員、垂澤優樹委員、宮川浩委員、北森ちか委員、清水貴夫委員

### 【事務局】

小林教育長、山岸教育次長、中村学校教育課長、後藤主任指導主事、北村指導主事、松木指導主事、安川係長

## 1 開 会

山岸教育次長：

## 2 あいさつ

勝山会長：

- 今回は予定されている最後の会議となります。
- 前回頂戴した修正箇所を、こちらの方で可能な限り修正させていただいたものです。ご確認いただいて答申書としてよいかお決めいただく会議となる。

## 3 議事

### (1) 答申書案について事務局から説明

安川係長：

- 答申書案の説明

### (2) 答申書案まとめ

勝山会長：

- 最後、私の方で答申書の骨子を再度皆さんにお伝えし、これで良いとなれば、正式な答申書にしていく。
- 1ページから2ページは現在の小中学校の現状が書かれている。
- 2ページの提言で、(1) 幼児期からつながる小中一貫教育推進で、提言として2つ柱がある。
- 小中一貫校の推進ということで、小中学校の6-3制度の枠組みに縛られない義務教育9年間を通した系統性・連続性のあるカリキュラムを編成し、児童生徒の学力向上を目指す小中一貫教育に取り組むこと。
- もう1つは学校類型で、地域の状況考慮しながら小中一貫教育を推進するための、適切な学校の形を検討すること。

- (2) 適正規模として2つある。1つ目は多様な価値観と出会える学校規模というので、1学年あたり小学校は2～3学級、中学校は4～6学級が望ましい。また、1学級あたりの児童生徒数は小中学校とも30人以下21人以上が望ましいということ。
- 2つ目は、この適正規模に近づける上での配慮として、必ずしも上記の適正規模を得られない可能性がある。その場合は地区の地理的状況や通学等の負担も考慮し、上記の適正規模に近づけていくことを望むという。
- (3) は学校の適正規模で、1つ目は、実現するため現在の学校数を見直すこと。
- 2つ目は、1つの小学校から児童全員が同じ中学校に進学できるようにする等の検討。
- (4) は学校再編の進め方で、1つ目は、対象地域は須坂市全体を対象として進めていくこと。2つ目は、学校再編は学区を分けて段階的に進める。3つ目は、学校再編に優先的に取り組む地域以外の小中学校でも、小中一貫教育を進める仕組み作りを検討していく。
- (5) 留意点として、1つ目は、保護者や児童生徒、地域への丁寧な説明を行う。
- 2つ目は、通学の安全性を十分配慮し、遠距離通学となる場合は、スクールバス等の適切な通学手段を確保すること。
- 3つ目は、子どもの学びを支援する体制の充実ということで、市費による講師等の配置や教職員負担を軽減する取り組みの拡充を検討すること。
- 豊かな学びを支えるために、地域や企業力を活用する取り組みをさらに進めること。
- 教員定数の改善についても、県や教育団体等を通して国への要望を継続すること。
- 以上が2年かけてお話しいただいて、最後まとめた提言の柱です。ここでご賛同いただければ正式な答申書にします。
- 何か意見ありますか。
- 意見がないということで、案を取った正式な答申書ということでよろしければ、拍手でお認めいただきたい。(拍手)
- 修正がないので、小林教育長に答申書を渡したいと思います。

勝山会長：

- ただいま答申書をお渡ししました。本当に皆さんありがとうございました。
- この答申書を作りお渡しすることが最も大きな命題だったが、今説明した中には、須坂市の子どもたちの将来が託されている部分が沢山ある。それから、未知な部分も当然ある中で皆様この2年間委員として、参加いただきいろいろな思いがあると思うので、一言ずつお話しをいただきたい。

A委員：

- 長い間、丁寧に積み上げた議論の末に生まれた立派な答申だと思った。
- 答申の中の最大の成果は、学校の適正規模とはそもそも何か。それについてアンケートを取ってその経験値からくる共通感覚というのをしっかりと捉えたというのが最大の成果だった。それによって、適正規模のコンセンサスを得たことが、これから実際に進めていく中で大きな柱になったと感じる。
- 今後、学校の適正規模の基準がぶれないよう、あり続けることが大事だと感じる。
- もう1つは、学校の適正規模で学校再編の進め方について、行動指針を明文化したことが、もう1つの大きな成果だったと感じる。

- 前進するのだという強い意志や、覚悟を感じた。
- 子どもたちの未来に対する責任感っていうのが根底にあり、そういった答申になったことがとても素晴らしいと感じた。

B委員：

- 今後子どもが学校卒業して、学校というものが終わりと言うわけではなく、須坂市民として小中高校とあると思うが、その中の一人の保護者として今後、協力できることがあれば、積極的にしていきたいと思った。

C委員：

- 小中学校両方を経験しながらこちらの審議会に出させていただいた。
- 小中学校のそれぞれの現状を見つつ、会議に参加できたことは非常に有意義だったと思う。
- 自分の子どもが、この適正規模の結果を経験することはないかもしれないが、その子が須坂市に残り大人になり自身に子どもができた時に、その子が通う小学校、中学校が子どもたちの素敵な未来に繋がるようにしていってもらいたいと思います。

D委員：

- 小中学校の子どもの保護者として参加させていただいた。
- 県外から嫁いできて、須坂のことは全くわからず参加させていただいたが、須坂のことを奥深く知ることができ、とてもいい経験になりました。
- これからの須坂の子どもたちが、生き生きと楽しい学校生活を送れることを願っています。

E委員：

- 私はこの2年間の前に学びのあり方でも、参加させていただいた。その時、信濃町の学校に行く機会があり聞いた話が、この学校はどんなふうあるべきなのか、を学校関係者だけでなく地域の方を含めて、民主的に決めていこうとする話があった。
- 確かに、簡単に決める人数を絞っていけば簡単にでる結論なのかもしれない。
- 須坂市は、いろんな関係各位を一堂に会して意見を求める機会があったのは、素晴らしい機会だったと思う。
- この答申書に合わせて、自分たちが目指したい教育スタイルや教育のあり方へと発展できればと祈っています。

F委員：

- 区長の立場からの審議会の委員になった。
- 留意点について区として、また区民としてもこの学校再編については、分からない方が結構いる。ここにも記載されているが、地域・区民に対しての丁寧な説明を是非お願いしたい。
- 通学の安全確保も、アンケートの結果も子どもの安心安全が最も高い。この安全確保には限りがないので進めていき、また区としても子どもたちの安全は継続し続けていきたい

いと、深く感じたところです。

- 子どもの学びのところで、教員不足がある。全国的に問題になっている。
- 審議会でも教員不足は必ず出てくる言葉で、何とか子どもたちの学習に影響のないように、みんなで知恵を出し合い教員不足解消または、多忙さの解消になるか考えていくことが大切だなと痛感した。
- 今後、児童生徒たちが須坂市にいて良かったと思えるよう、これからもよろしくお願ひしたいと思う。

G委員：

- 保護者、児童生徒、地域への丁寧な説明は本当に大事に思った。
- 教職員の皆さんの多忙な日々を軽減するため、市費での対応等についても検討し、良い方向にしていだければ良いと思います。
- 未来を担う子どもたち、そして地域がより良くなるようにお願ひしたいと思う。

H委員：

- 地域に一番関係することで、私どもは区長を代表してここに来ています。審議会が終わると一市民になりますが、この最後の提言の部分で地域への説明とか、そのようなことを事務局の方でより一層考えていただきまして、地域性もありますのでより良い編成していただければと思う。

I委員：

- 私は今年度から委員になった訳ですが、やはり審議会の前に市として学びのあり方をしっかりと検討していただいたこと。それがベースにあって今回の適正規模の審議が進んだと思う。
- 学びのあり方に立ち返って、どうあるべきなのかという議論になったことはとても大事だった。
- 現場で日々生徒たちと学びを紡いでいる中、そこは外せないという思いをもって参加していた。
- 区長さんも言われた通り、地域への丁寧な説明、大変ですがそこがとても重要だと思う。
- 現役の校長として、提言された学びのあり方を更に一步一步進めていけるように、今後も現場で頑張っていかななくてはと思う。

J委員：

- 本校では2年生の新しい生徒会づくりが始まったところで、その中で役員が、「生徒減少に伴う持続可能な生徒会づくり」という公約を掲げて見事に信任され当選した。子どもたちも一緒にこの問題に対して考えている。
- 職員アンケートでびっくりしたのが、50代60代が54パーセントという今の須坂市の年齢構成です。10年すると半分代わってしまうことで、この答申とか、思いとか、須坂モデルをいかに伝えていくかが大事ななと感じている。

K委員：

- 原点はこの学びのあり方検討会議だと思う。
- 須坂市がスチューデントファーストという立ち位置に立って、子どもたちに豊かな学びを実現するために、どんな学校づくりを進めていけばいいのか。直近の少子化だけでなく、須坂市の子どもたちの10年20年を見据えた学校づくりを、どう進めればいいのかとても大事な会議だったと思う。
- アンケートの中で、1学級30人以下が一番適切だと捉えている児童生徒、保護者がいる。学びのあり方検討会議の中で、個別最適な学びと協働的な学びの推進や、インクルーシブ教育の推進に大きく関わってくる規模なのだと思う。
- 豊かな子どもたちの学びが実現できるよう尽力していきたいと思う。

#### L委員：

- 長い時間をかけて、須坂モデルの学びのあり方というビジョンを練るところから、アンケート等いろいろな資料、根拠を基に洗練された答申だと感じています。
- 単級学校の校長として学ばせていただくことが多々あった。
- 時代と共に学びや学校が、その時代の背景や子どもたちのニーズにより、そして周りの大人により熟議され、子どもたちにとって一番良い学びを模索しながら作っていく、この過程が素晴らしいと思った。
- これから学校を作っていくにあたり、地域のことなど様々なことがあると思うが、これからの子どもたちの未来に向かって、良い形になっていくことを楽しみにしています。

#### M委員：

- あり方検討会から今まで、4年間この会議に関わらせていただき、子どもたちの新しい未来に向かっていく気がして、毎回楽しく議論させていただいた。
- 幼児教育の最大の課題は、幼児教育が教育のスタートとして認識されていないことだと思っている。
- 答申書の資料の中で、学校で取り組む課題としての保護者アンケートの結果で、小中連携・小中一貫教育の推進と回答されている方がわずか2パーセントしかいない。
- おそらく多くの方は、学びとは小学校から始まるという認識ではないかと思う。
- 今回の答申書の中に、しっかり幼児教育から繋がるという部分が盛り込まれていることが、とてもありがたい。
- 世間で言われている乳幼児期の課題は、保護者の経済的負担だったり、育児との両立だったり、あるいは少子化、虐待、不適切保育とかで、子どもを主語にしたことが語られることがなく、どうしても大人目線での話ばかりになっていることが多い。
- 今度は子どもを主にして、幼児教育から繋がる育ちという部分を主語にして、語れるような世の中になっていければと思っている。

#### N委員：

- 答申書に書かれている内容と、思いや覚悟をもって須坂市の子どもたちの未来に向けて繋げていきたいと思う。
- 答申書の留意点①地域社会の将来を担う人材を育てる場所と言う文章が大事だと思っている。学校で育てた子どもたちが、育つだけではなく、地域にまた戻ってきてこの須坂

市をしっかりと作り上げてくれるような魅力ある教育の方法と、大人たちの関わりを子どもたちに見せることが非常に大事だなと感じた。

- 一辺倒な決断という表現ではないやり取りができたと思う。この思いが答申書に盛込まれていることに感謝いたします。

○委員：

- まだスタートの段階で、ここから地域の方たちにどうお知らせし、進めてくかかってことが、すごく楽しみだと思う。
- 子どもたちがこれから夢をもって、須坂に住んでいることが楽しく思えるような、そして栄えた町になっていくための審議会だったと思う。

P委員：

- 私は学校の中のことを伝えてきたつもりです。いろいろな夢があり、現実もありその中でどこをどう捉えていくかが、すごく難しかったと思う。
- 須坂市だけでなく世界の状況まで話すことができ、とても勉強になった。
- 毎日同じところで生活をしているその目線で考えた時、子どもたちがより充実した生活を送るために、何ができるかってことを考え続けた2年間だったと思う。
- この答申が実現し、子どもたちが生き生きと過ごせ、自分らしさを発揮でき、そして須坂市で生き生きと生活して、須坂市を好きになってくれる子どもたちが育っていただけることを願っている。

荒井副会長：

- 新しい時代の学びを実現する学校（須坂モデル）が作られたという報告をいただいて、この適正規模審議会の委員の依頼をいただいた。須坂市が求めている教育のあり方が示されているということが重要であった。
- 教育とか学びが、何も考えずに与えられる時代から、非効率で手間暇はかかるが、共に作っていくという覚悟を持ってやっていかないと、立ち行かない時代に大きく変化している。
- 今後は須坂モデルを実現するためという前提を常に共有しながら、答申を踏まえ教育委員会の皆さんが、執行機関として判断することになる。
- 思いが詰まったこの答申書を、中軸に据えていただきながら意思決定いただきたい。
- これからの地域社会を新しく作っていく、こういった子どもたちを私としては応援したいなと思っている。

勝山会長：

- 委員の皆さんがそれぞれの思いで、この会議に出ていただいたことを改めてここでお話を聞いて感じました。
- 委員がそれぞれの立場や感覚で、経験・思い・願いを話されていることを、どう共有し理解し繋げていくかを、常に考えていた。
- いただいた意見はどれもが、子どもたちのために考えている意見だと感じながらやってきた。

- 答申もたくさん書こうと思えば書けるが、そうすると一番大事なことがわかりづらくなるので、非常にスリム化している答申だと思う。
- この答申は、委員の1つ1つの願いが詰まっているので、是非それを教育委員会の方で広げて行っていただきたい。
- やはり子どもを育てるには、学校はもちろん、地域も保護者もとにかく新しいものを作るとしたら、一緒になってやって行かなければならないことを、強く感じた。

### (3) その他

小林教育長：

- 学びのあり方検討会議を含めて4年間の審議の最終場面を迎えようとしていることを、実感している。
- 皆様方には、2年間ご審議をいただき、先程答申をいただいた。心から御礼を申し上げます。
- 皆さんのそれぞれの立場からのご意見を伺う中で、それぞれに説得力があり、聞いていてもその言葉の奥にある心情を察して、胸が熱くなる瞬間が何度もありました。
- 須坂市の未来を教育に託すという強い責任感で、皆様方に共通しているのは、常に最上位に未来の子どもたちのウェルビーイングがあった。このことは、教育委員会一同にとっても、大きな学びとなった。
- 会長には、審議の方向を的確に示していただき、そして意見を出しやすい雰囲気作りにも努めていただいたこと、深く感謝いたします。
- 副会長は、日本の教育学者の中で最も各方面から、頼りにされている先生の一人です。その中を、須坂のためにきていただき、ポイントポイントで的確なアドバイスをいただいた。
- 信濃毎日新聞に書かれているコンパスの部分では、一歩ではなく、二歩三歩前を向いている先生の言葉に、影響を受けている教育関係者は多いのではと思っている。
- 3年前に遡って恐縮ですが、2020年に少子化や人口減少や情報化、グローバル化など大きな社会環境の変化がある中で、これからの子どもたちはどういう学びや、資質能力を育てていけばいいのか、須坂なりに考えなければという議論が私たちの中に起こった。
- この課題を全国各地の先進事例を調べていくと、議論が学校の統廃合の問題に偏りがちになる傾向が見られるため、須坂市は二段階で審議をしようと決めた。
- 一段階目は、未来を生きる子どもたちの学びの質、育みたい資質能力について。
- この検討会議では4つの柱を基に話し合われました。
  - 1つ目は、幼児期から始まる非認知能力を育む取り組み。
  - 2つ目は、個別最適な学びと協働的な学びを進める取り組み。
  - 3つ目は、須坂が大事にしてきた、特別支援教育の視点から1人1人の可能性を伸ばす取り組み。
  - 4つ目は、学校運営や教育を取り巻く地域活動に関する取り組み。
- この提言書の内容を土台とした第2段階、それがこの審議会であった。学びの形にふさわしい学校環境のあり方、これを模索するために発足したのがこの審議会でありました。
- 教育委員会では、これからこの答申書に基づいて次年度中をめどに、須坂市小中学校再編基本構想のプランを作っていこうと考えている。

- 皆さんからのお言葉の一言一言と、さらに、あり方検討会議の提言書の「今、情報通信技術の急速な発展等により、社会構造自体が大きく変わろうとしている。改革の機会は今、まさに挑戦しなくてはならない。いわば今が、チェンジ・チャンス・チャレンジの時である。この改革は、地域社会、保護者、行政が相互に連携し、繋がりを持つ中でしか出せないと考える」この一部分の言葉を肝に銘じながら、須坂市の子どもたちにとって、より良い学びの環境を作り上げていきたいと考えている。
- 今後とも、須坂市の学校再編に向けての動きを、しっかり見守っていただき、高所からのご意見を賜りますようお願い申し上げます、私からの挨拶とさせていただきます。

#### 4 須坂市小中学校適正規模等答申報告会について

中村学校教育課長課長：

- 答申書を市民に説明する報告会を開催する。委員皆さまの協力をお願いします。  
日時：2月18日（日）14時～15時30分、場所：旧上高井郡役所

#### 5 その他

#### 6 閉会